

令和8年2月24日

加西市議会議員 中右憲利 様

清流会・かさいを育む会  
幹事長 森元 清蔵

## 調査研究報告書

下記のとおり行政視察研修を行いましたので、報告いたします。

### 記

- 1 調査年月日 令和8年2月9日（月）～2月10日（火）
- 2 視察先 滋賀県彦根市、石川県加賀市
- 3 出席者 佐伯欣子・森元清蔵・下江一将・橋本真由美  
欠席者 森田博美（病気療養のため）
- 4 視察内容等
  - ◇滋賀県彦根市 2月9日（月）13:30～15:30  
（視察項目） 彦根市GIGAスクール構想について  
（視察対応者） 教育委員会学校ICT推進課 北川課長、大西課長補佐、宮川主査  
議会副議長 林 利幸  
（視察内容） 別紙
  - ◇石川県加賀市 2月10日（火）9:30～11:00  
（視察項目） 学校教育ビジョンに関わる取り組みについて  
（視察対応者） 教育委員会学校指導課 北市課長  
議会副議長 中川敬雄  
（視察内容） 別紙
- 5 所感 (別紙)
- 6 添付資料
  - ① 視察行程表
  - ② 研修資料
  - ③ 写真

(視察内容)

## 滋賀県彦根市

【 視察項目 】 彦根市 GIGA スクール構想について

【 目的 】 ICT の活用による授業内容とその成果を学ぶ

【 内容 】

彦根市 GIGA スクール構想

彦根市学校教育 ICT 最適化整備計画 (令和 2 年～令和 5 年)

彦根市学校教育情報化推進計画 (令和 6 年～令和 9 年)

4 つの柱①ICT を活用した児童生徒の資質・能力の育成②教職員の ICT 活用指導力の向上と人材の確保③ICT を活用するための環境整備④ICT 推進体制の整備と校務の改善

### ◇取り組み経緯と現状

- ・令和 2 年 一人 1 台の端末整備、校務用端末、校務支援システム、学校ネットワークの整備
- ・令和 3 年 インターネット接続回線の増強
- ・令和 4 年 4 小学校 7 中学校にアクティブラーニング教室整備  
スマートチャージ導入、中学校大型提示装置更新
- ・令和 6 年 13 小学校にアクティブラーニング教室整備、採点支援システム試験運用
- ・令和 7 年 端末の更新、校務支援システム更新、採点支援システム導入
- ・令和 8 年 小学校大型提示装置 (電子黒板) 更新 5 校

### 1. 一斉学習での ICT の活用

- ・普段の授業では、教員の端末の画面を大型提示装置に投影し、映像を活用した授業をしている。小学生用のデジタル百科事典を契約し、端末機で活用している。
- ・生徒一人ひとりの理解状況や参加状況を即時に把握でき、授業改善につなげている。
- ・従来の一斉授業に比べ、学習内容の定着や授業への参加意欲の向上が見られる。

### 2. 個別学習への取り組み

- ・AI を活用したデジタルドリルを導入していて、教員側の管理画面で学習状況が確認できるので、一人ひとりの学習の進捗に合わせた支援を行っている。
- ・基礎学力の定着や学習意欲の向上が見られる。

### 3. 協働学習の実践

- ・アクティブラーニング教室においては、グループ単位で学習内容を決め、意見交換しやすい仕組みを多数導入している。ホワイトボードや組み合わせ機でグループ学習がし易い。

### 4. ICT 導入による学習意欲・学力の変化

- ・発表が苦手だった子供たちが、端末を通じて自分の意見を表現しやすくなり、心理的なハードルが下がったことで積極的な参加が促されている。
- ・反復学習の機会が増加し、基礎的な知識・技能の定着に一定の効果がみられる。
- ・一方で、理解を伴った定着や長期的な定着を図るためには、教員による確認や活用場面の設定が引き続き重要である。

### 5. アクティブラーニング教室の整備

令和 4 年度……4 小学校・全 7 中学校において整備

令和 6 年度……13 小学校で整備 全 24 校で整備完了

整備内容

小学校……自由にレイアウトできる机、机にもイスにもなるスツール、電子黒板

壁面ホワイトボード+電子黒板機能付きプロジェクター

共通……高性能パソコン (小学校は各校 10 台、中学校は各校 40 台)

教育用ドローン、3D プリンター

オンライン配信設備 (カメラ等)

中学校……プログラミング教材、組み合わせデスク、ゲーミングチェア

## 石川県加賀市

【 視察項目 】 学校教育ビジョンに関わる取り組みについて

【 目的 】 デジタルを取り入れた「子どもが主役」の授業の取り組みを学ぶ

【 内容 】

### 加賀市学校教育ビジョン「BE THE PLAYER」

#### 1. 策定に至った経緯

- ・2014年消滅可能性都市に指定され、デジタルを使いこなせる人材育成が非常に重要だと位置づけ、国の必修化より3年早く2017年から小中学校でプログラミング教育を開始。
- ・「加賀市学校教育ビジョン」を発表……2023年1月、2023年から2025年度の学校教育の方向性を示し、教育改革を始めた。

・4つのスローガン

①学びを変える ②誰一人取り残さない ③未来は自分で創る ④地域と一緒に

#### 2. 学びを変えるプロジェクト

- ・教師主導の画一的な一斉授業から脱却し、子どもが主役の授業へ
- ・パソコンを活用して、自分のペースで自分で学ぶ。
- ・たくさんの人と対話して助け合って共に学ぶ。
- ・「そろえる」教育から一人ひとりを「伸ばす」教育へ変える。
- ・学びの内容は変わらない。学び方を変える。自分から学ぶ。
- ・学びの環境づくり。方向性を示すのみ。各学校に任せている。
- ・プロジェクトマネージャー3名が、伴走型で先生の授業を変える試みを支援。
- ・先生は、年に1度、まとめの対話研修を行い、問題点を出し合って改善していく。

#### 3. 誰一人取り残さないプロジェクト

- ・誰一人取り残さず学びが届くような不登校支援プランの作成。
- ・子どもが学校に合わせるのではなく、学校が変わっていく。
- ・多様な学びの場や居場所を設け、子どもたちを社会と未来につなげていく。
- ・校内サポート…一斉一律の授業から「子ども主役」の授業へ、校内の居場所の多様化。  
いつでも相談できる多様な環境。
- ・校外サポート…教育総合支援センターが中心となって学校や地域、関係機関と連携したり、  
個人のアセスメント、きめ細かい支援方策のケース検討の実施。  
地域で受け入れる場所の多様化。
- ・校外の居場所……児童センター6か所、教育総合支援センター内に「Being」室
- ・チャット相談ができるサービス…チャット相談ブリッジ（端末、スマホで相談）

#### 4. 未来は自分で創るプロジェクト

- ・STEAM教育の実践…単に理数やテクノロジーの学びだけでなく、分野の枠にとらわれず、  
創造性や発想力を組み合わせて課題解決に挑んでいく探求型の学習。
- ・小中一貫型の加賀STEAM教育プログラムの実施。小学1年からプログラミングがスタート。
- ・テクノロジーの進化を他人事にせず味方にしながら、課題解決の幅を広げる。
- ・子どもたちの好奇心であふれるワクワクするようなSTEAMの時間を創っていく。

#### 5. 地域と一緒にプロジェクト

- ・全小中学校コミュニティスクール設置……学校と保護者や地域がともに知恵を出し合い、  
学校運営に意見を反映させ、一緒に学校や子どもを支えていく。
- ・中学校部活動の地域移行……2024年8月から土日の地域クラブスタート。  
2025年8月より土日の学校部活動は完全になしに。部活動は平日のみ。
- ・学校・保護者間の連絡手段のデジタル化……CoDMoN導入

**【滋賀県彦根市】 彦根市 GIGA スクール構想について**

当日は、平田小学校 2 年生の国語の授業を 45 分間参観しました。アクティブラーニング教室でグループに分かれ、教科書、タブレット、本や図鑑を使って「冬を感じる言葉の図鑑」を作ろうという授業でした。子どもたちは、それぞれ自分で考えて活発に取り組んでいました。アンケートにおいても、アクティブラーニング教室の方がより集中できると児童も先生も約 80%が答えている。コンピューター教室ではなく、アクティブラーニング教室として、創造的発想で課題を解決する人材を育成する場所とし、「この場所で何ができるようにするか」を考えて、必要な機器を整備されている。

今までの、先生による一方向の授業ではなく、グループワークや対話を通じて「主体的・対話的で深い学び」を追及し、知識の定着率向上や創造的思考力・表現力を養うことを目的としたアクティブラーニングの取り組みは、すばらしいと思う。

加西市でも、STAM Labo 教室を充実して、アクティブラーニング教室として大いに活用して行くべきと思う。

学校教育情報化推進計画をたてて、児童の資質、能力の向上、教師の ICT 活用指導力の向上、ICT 推進体制の整備がすすめられている。特に、各学校に 1 名「端末等活用推進リーダー」を配置して研修したり、ICT 支援員による各学校の個別研修がなされている。加西市は、STAM 教育もしているが、全体の教育情報化推進計画を作って方向性を定めて推進していくべきだと思う。

**【石川県加賀市】 学校教育ビジョンに関わる取り組みについて**

加賀市の学校教育ビジョンは、学校教育の様子を変えるすばらしいプランである。モデル校を作らず、このプランを押し付けではなく、各学校のやり方に任せているとのこと。学ぶことは同じで、ただ学び方を変えて実践しているだけと言われていました。IC 端末を利用して、自分のスピードに合わせて、自分のペースで自分から学んでいる。

この背景には、NPO 法人カタリバと約 1 億 4000 万円（ほとんど人件費）で委託契約をしていて、そこのプロジェクトマネージャーが各校に入って伴走型で先生に助言したり、子どもたちのチャット相談の対応をされている。こうした外部の人材を活用してビジョンを実現されているのは素晴らしい。

誰一人取り残さないという取り組みも充実している。困ったときは、教室に「お助け BOX」があり、一番できない子供に寄り添って学校生活がされている。不登校生も約 200 人と多いが、子どもの「社会的自立」を第 1 に考え、いろいろな学びの場や社会とつながることができる居場所をいろいろつくられている。

ICT を利用して、やり方によっては、加賀市のように今までの授業と違った「子どもが主役」の授業や「伸ばす」教育ができていくと思う。

所感

佐伯 欣子

## 【滋賀県彦根市】 彦根市 GIGA スクール構想について

彦根市の方針として、ICT・GIGA スクールの活用の目的、方向性、計画をしっかりと策定しておられます。まず、令和2年度～令和5年度の「彦根市学校 ICT 最適化計画」に続く計画として、令和6年度～令和9年度の計画期間である「学校教育情報化推進計画」が策定され、この中で ICT を活用するための4つの柱を基にアクティブラーニング教室を最大限に活用。

実際にアクティブラーニング教室(平田小学校2年生国語の授業)を見学いたしましたが、教室前面にある壁面ホワイトボード+電子黒板機能付きプロジェクターを使っの授業は先生方の熱意と子ども達の真剣さを感じました。

確かに今後、AI が導入されていくでしょう。しかし、まずは、DX をどのように教育に取り入れ推進していくのかを筋道を立て、成果を見ながら進まれています。また、計画には、ICT 環境整備計画、ネットワーク整備計画、校務 DX 計画等細やかな学校、地域、保護者、子ども達に関わる内容となっています。令和3年に教育委員会内に学校 ICT 推進課が作られたことを見ても彦根市の並々ならぬ思いと行動が伝わってきます。

加西市においても、現在 ICT 活用はされていますが、まだまだ明確に計画性を持って進められていないのではないかと思います。教育委員会内に専任部署がなくても、庁内の情報課と連携し、もっと進めていくべきかと考えます。

## 【石川県加賀市】 学校教育ビジョンに関わる取り組みについて

加賀独自のカリキュラム、加賀 STEAM プログラム。今の大人たちが経験していない問いがあふれている「今」、そしてますますその傾向が強まる子ども達の「未来」に鍵になるのは、常識を疑い、問い続け、本質的な問題を発見し、創造的に課題解決する力が必要です。加賀 STEAM の考え方は前市長、教育長から現市長、教育長に受け継がれています。

加賀 STEAM の取り組みは、当初チラシを全戸配布と市内に看板設置をされた。そして、子ども達だけではなく、教師も夏季には全体研修会を開き、伴走型に変えてみんなでやるという考え方を共有し、だからこそ成果や課題が出ています。

加西市においても加西 STEAM に取り組まれてきましたが、現時点では総合授業との併用をされていることが多く、まだまだ STEAM の取り組みは充実されていないと思います。また、加賀市には加西市にない専門知識を持つプロジェクトマネージャーが3名おられ、各学校を回っておられます。これが絶対成功だ！とは言えない状況があったとしてもやり続けていく姿勢に教育委員会の粘り強さがあると感じ入りました。

**【滋賀県彦根市】 彦根市 GIGA スクール構想について**

彦根市では、利用頻度が低下していた小学校のコンピュータ教室を「アクティブラーニング教室」へと大胆に転換している。この教室は、児童一人ひとりの考えや気持ち、学習状態をより詳細に可視化し、主体的な参加を促す仕組みとして整備されたものである。実際に2年生の国語の授業を拝見したが、子どもたちが自らの考えをグループで共有し、非常にイキイキと活動している姿が印象的であった。今回の視察において特に感じたのは、ICTの活用が単なる発表の補助手段に留まるのではなく、子どもたちが自ら問いを立て、調べ、深めていく「探求活動」の幅を大きく広げるための強力なツールとして機能しているという点である。

また、ハード面だけでなく、教員の指導力を支えるソフト面での支援体制も充実している。先生方に求められるファシリテーション能力を向上させるため、ICT支援員が学校を巡回し、現場のニーズに応じた研修を柔軟に実施している。タブレット端末についても、約8割の学校で調べ学習などのために持ち帰り活用がなされており、日常生活の中に学びのツールが着実に浸透している様子が伺えた。

一方で本市の現状を見ると、全小中学校にSTEAM Labo. が導入されているものの、現在は目に見える動きが乏しい状況にある。また、教員によって端末の活用頻度や手法に差が生じており、子どもたちの学びの質に格差が出る懸念も拭えない。彦根市では教育長の強力な旗振りのもと「学校ICT推進課」が新設され、組織的な推進体制が構築されている。端末を使うこと自体を目的化するのではなく、子どもたちの多様な探求を支える基盤として、彦根市の先進的な組織体制や事例を参考に、本市における教育DXの今後の方向性について、実効性のある検討を進めていただきたいと考える。

**【石川県加賀市】 学校教育ビジョンに関わる取り組みについて**

まず注目すべきは、学びの「コントローラー」を子どもたちに渡す「ゆだねる授業」の実践である。これは、従来の一斉授業の形式に加え、單元ごとに自分のペースで学ぶ「自由進度学習」を取り入れたものである。カリキュラムの内容は変えずに授業のやり方を変更することで、子どもたちが自分のペースで学び、互いに助け合い、共に学ぶ環境づくりを大切にしている。このアプローチにより、子どもたちの顔色がイキイキと変わり、主体的に学ぶ姿勢が向上するという成果が得られている。

この変革を支えるのが、先生一人ひとりの課題に対応する「伴走型」かつ「対話型」の研修である。現在は3名のプロジェクトマネージャーが学校現場をサポートし、教員自身がどういう授業にすべきかを自問自答することで、学校（先生）が本気で変わろうとしていると感じた。また、加賀市では特定の「モデル校」を設置せず、市内全ての学校で全教員・全生徒が「自分ごと・当事者」として取り組む姿勢は非常に素晴らしいと感じた。そして、それらが形作られている理由として加賀市学校教育ビジョンがあり、その言葉一つ一つに思いを込め、組織全体で同じ方向を向くことで、教育全体の底上げが図られていると考える。

本市においても『郷土を愛し 豊かに未来を拓く 人づくり』～人生100年時代をたくましく創造的に生きる～ という理念がある。加賀市の事例を参考に、この理念を実現するための取組をイラスト等で可視化し、市民や教員がパッと見て理解できる「ビジョン」や「教育の3本の矢」として整備すべきである。理念を共有し、可視化された具体策に基づいて取り組むことが、本市の未来を拓く人づくりに不可欠であると考えます。

**【滋賀県彦根市】 彦根市 GIGA スクール構想について**

彦根市の小学2年生の国語の時間を見せていただいた。その学校の授業では、冬の言葉図鑑を作るのに、冬の言葉を見つける為、タブレットを活用し、付箋を使い、言葉をグループ分けをし、子ども達が検索に取り組む姿を見させていただいた。タブレットを使い、検索をし、子ども達が楽しみながら学ぶ姿が見られた。個別学習への取り組みも、AIを活用したデジタルドリルを導入し、教員がそれぞれの学習状況を把握して児童1人1人の学習の進捗に合わせた支援をしているとの事。それは、苦手や得意が違う子ども達の成長や学力にも良い影響があると考えます。

ICTを活用した個別学習により、基礎的な知識の定着の一定の効果がある。本市にもタブレットもあるが、科目問わず活用する事で、学びの幅が広がったり楽しい学びにも繋がるのではないかと考える。

しかし理解の伴ったICTの推進していく為にも、彦根市では、先生方のICT支援体制をしっかりとするためにも、研修、サポートなどもしっかりとされている。各学校に1人1台端末等活用推進リーダー向けの研修を近隣市としたり、各学校での個別研修をされている。

本市としても、様々な機会にICTを活用し子ども達の能力を育成していけるよう、さらなる活用推進していきたい。

**【石川県加賀市】 学校教育ビジョンに関わる取り組みについて**

BE THE PLAYER をスローガンに、自分で考え、動く、生み出す、そして社会を変える。学びのコントローラーを子ども達に渡し、タブレットにもお助けボックスと言うものがあり、1番苦しい子が自力で学びを進めることが出来る手立てがされている。

加賀市では、単元内自由進度学習をされている。学ぶ内容は同じであるが、学び方を変えると、子ども達が自ら勉強する。表情も変わった。

この学習方法を進めるためにも、研修がしっかりとされており、講座型ではなく、伴走型や対話型の研修をされているのは、素晴らしい取り組みと感じた。一方通行の研修では、聞ききれない部分もあるが、教員それぞれが、しっかり理解し、自分ごとにする事で全教員で作り上げる教育となると思う。

そして、誰1人取り残さないため、不登校支援も校内サポートと校外サポートを取り入れられており、校外の居場所がとても多い。その中の斬新な取り組みとして、チャットで相談できるサービスをされており、NPO法人カタリバ(市外)の専門相談員が対応してくれるなど、子どもも保護者も自分のスマホから気軽に相談できるのはとても素晴らしい取り組みと感じた。

STEMに関して、小学1年生から中学3年生まで、STEMを楽しみ、課題の解決をし、もっと技術をつけ、人の役に立つ。しっかりプログラムされており、加賀市は、多様な学びも居場所もあるため、魅力ある今の教育のあるべき姿だった。広い意味での、今の誰一人取り残さないという、取り組みは本市も見習うべきところは多大にあると感じた。

(添付資料)

①視察行程表

清流会・かさいを育む会 行政視察 行程表

2月9日(月)

09:52 発 加古川駅 JR 神戸線新快速 (野洲行)  
10:43 着 大阪駅  
10:45 発 大阪駅 JR 京都線新快速 (野洲行)  
11:14 着 京都駅  
11:15 発 京都駅 琵琶湖線新快速 (野洲行)  
11:43 着 野洲駅  
11:44 発 野洲駅 琵琶湖線 (米原行)  
12:09 着 南彦根駅

★南彦根駅周辺で昼食 タクシー移動が必要

**13:30～15:30 彦根市視察[市立平田小学校]  
・彦根市 GIGA スクール構想について**

16:36 発 南彦根駅 琵琶湖線 (米原行)  
16:44 着 米原駅  
16:56 発 米原駅 しらさぎ 11 号 (敦賀行)  
17:26 着 敦賀駅  
17:38 発 敦賀駅 つるぎ 34 号 (富山行)  
18:16 着 加賀温泉駅  
タクシー移動  
宿泊先 ホテルききょう

2月10日(火)

宿泊先 ホテルききょう  
タクシー移動

**9:30～11:00 加賀市行政視察[加賀市役所]  
・学校教育ビジョンに関わる取り組みについて**

★加賀温泉駅周辺で昼食

13:24 発 加賀温泉駅 つるぎ 23 号  
14:02 着 敦賀駅  
14:20 発 敦賀駅 北陸本線新快速 (湖西線經由姫路行)  
14:36 着 近江塩津駅  
14:37 発 近江塩津駅 湖西線新快速 (姫路行)  
15:58 着 京都駅  
16:00 発 京都駅 JR 京都線新快速 (湖西線經由姫路行)  
16:28 着 大阪駅  
16:30 発 大阪駅 JR 神戸線新快速 (湖西線經由姫路行)  
17:23 着 加古川駅

②研修資料

③写真



彦根市



加賀市